

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

ハークスレイ

7561 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 8 月 8 日 (金)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

2026 年 3 月期第 1 四半期の経常利益は上期計画を超過。 中食事業は黒字に転換。

ハークスレイ <7561> は、「中食（持ち帰り弁当）」「店舗アセット&ソリューション」「物流・食品加工」の 3 事業を柱に、“食”の事業領域で多角的な M&A を実行し成長する企業である。

1. 2026 年 3 月期第 1 四半期の業績概要

2026 年 3 月期第 1 四半期の売上高は過去 10 年間で最高を達成し、各利益も減益ではあるものの経常利益は上期計画を超過し順調に進捗している。売上高が前年同期比 20.9% 増の 12,893 百万円、EBITDA が同 14.3% 減の 905 百万円、営業利益が同 44.8% 減の 386 百万円、経常利益が同 51.8% 減の 345 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 67.6% 減の 156 百万円と、増収減益となった。

売上高に関しては、「物流・食品加工事業」で 2024 年 12 月に連結子会社となった(株)ホソヤコーポレーションの押し上げ効果（約 18 億円）に加え定番商品が好調に推移したほか、「中食事業」でほかほか亭の新メニューが好調に推移したこと等が増収に貢献した。一方で、「店舗アセット&ソリューション事業」においては、稼働店舗数の増加によりストック収入が増えたものの、前期に発生したテナント入れ替え収入（約 3 億円）が剥落した影響により当セグメントは減収となった。「中食事業」のセグメント売上高は同 7.8% 増の 4,426 百万円、「店舗アセット&ソリューション事業」のセグメント売上高は同 4.6% 減の 3,025 百万円、「物流・食品加工事業」のセグメント売上高は同 52.0% 増の 6,053 百万円となった。

売上総利益は前年同期比 8.6% 増の 4,000 百万円と堅調に増加したものの、原料価格高騰及び前年同期のテナント入れ替え収入剥落の影響等により売上総利益率は 31.0% となり前年比で 3.5%pt 減少した。販売費及び一般管理費率としてはコントロールの結果前年同の 28.0% と横這いになり、営業利益率は 3.0%（前年比 3.6%pt 減）となった。セグメント別では、増収及びお米を始めとした原価低減により「中食事業」で黒字化した一方で、「店舗アセット&ソリューション事業」でテナント入れ替え収入の剥落、「物流・食品加工事業」でのれん償却費及び原材料コスト上昇等により、それぞれ減益となった。

同社最大のセグメントの「物流・食品加工事業」は成長ドライバーとして安定して利益を創出しており、「中食事業」も原価高騰の中でも黒字化を達成。「店舗アセット&ソリューション事業」ではテナント入れ替え収入 3 億円の剥落を考慮すると実質的には堅調成長であり、3 セグメントが自立し稼ぐ力が着実に向上している。

2. 2026 年 3 月期の業績見通し

2026 年 3 月期は、売上高は前期比 16.7% 増の 52,700 百万円、営業利益が同 1.6% 減の 1,900 百万円、経常利益が同 23.2% 減の 1,600 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 17.0% 減の 1,000 百万円と、増収減益の予想である（期初予想変更無し）。進行期も「物流・食品加工事業」は成長をけん引すると予想される。連結子会社(株)ホソヤコーポレーションの年間を通した売上及び利益の連結がプラス要因となる一方で、のれん償却、菓子原料のコスト上昇なども見込む。「店舗アセット&ソリューション事業」では、不動産管理テナント数を増加させるなどストック収入を着実に積み上げていく。なお、不動産販売（物件売却）の売上高および利益は見込まない予想数値としているため、売却が成立した場合は予想が上振れる可能性もある。「中食事業」は、2025 年 3 月期の下半期以降は黒字転換しており、米価高騰対策の麺メニューや大阪・関西万博に出展しメディア露出大幅増加など好材料もあり好調を維持する見込みである。

中食事業トピック：大阪・関西万博への出展、新メニューの好調などによりマスコミ露出が増加

同社は、2025 年 4 月からスタートした大阪・関西万博において、大阪ヘルスケアパビリオン「ミライの食と文化ゾーン」に協賛・出展している。特に注目を集めているのは、のり弁当の元祖であるほっかほっか亭がつくる未来のお弁当「ワンハンド BENTO 海苔弁（500 円）」である。従来の味わいはそのままに、万博来場者が歩きながらも食事ができる利便性が好評であり、マスコミの注目度も高くなっている。また、米価高騰対策の麺メニューとして新たに開発された「とりめし焼きそば弁当（490 円）」やリニューアルした「スペシャルシリーズ」（のりスペシャル（790 円）、唐揚げスペシャル（790 円）など）なども好調である。マスコミの露出が増えたことで全国の店舗販売にはずみがついている。

株主還元策：「前年を下回らない増配」が基本方針。 2026 年 3 月期は 2 円増の 28 円予想（中間 14 円、期末 14 円）

同社は、安定的な配当の継続を基本方針とし、将来に向けた成長投資に利益を配分するとともに、株主への利益還元重視の姿勢をより明確にするため、1 株当たり当期純利益の伸長に合わせて「前年を下回らない増配を目指す」としている。中期経営目標では最終年度の 2028 年 3 月期に年間配当 35.0 円とする目標を掲げており、毎年 2.0 円から 3.0 円前後の増配ペースが期待できる。自己株式の取得については、資本水準や株式市場の環境に加え、ROE や 1 株当たり当期純利益が伸長する効果を総合的に勘案し、機動的に実施するとしている。2026 年 3 月期は、年間配当 28.0 円（同 2.0 円増配、中間期 14 円、期末 14 円）、配当性向 51.8% を予想する（期初予想通り）。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp